

## 学校質問紙調査の結果から

※学校質問紙から一部を抜粋 ※数値は肯定的な回答をした学校の割合(%)

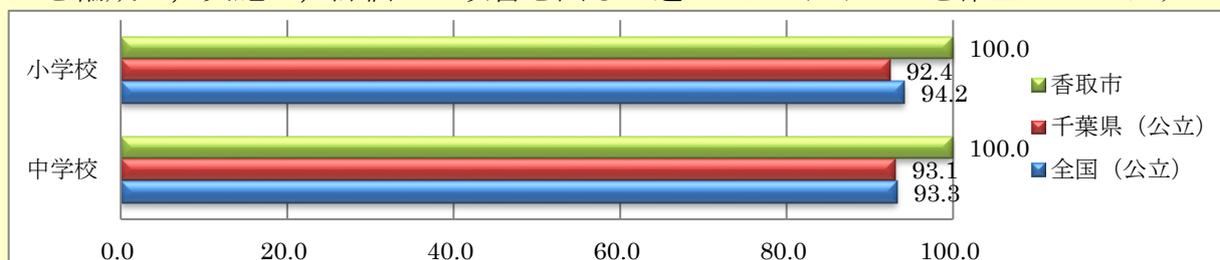
- 調査学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか



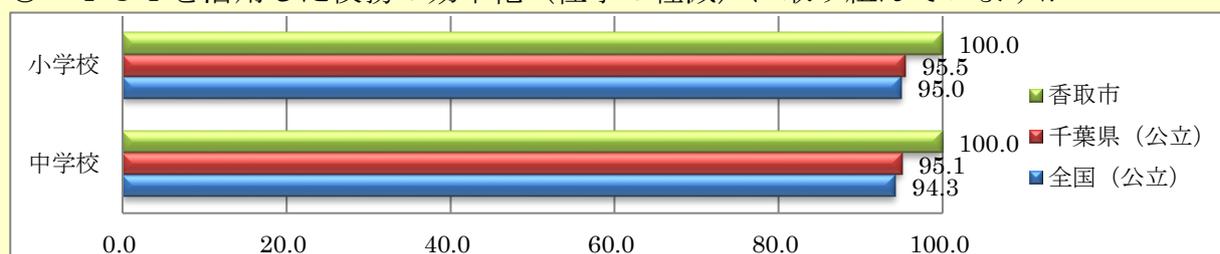
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか



- 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査、各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



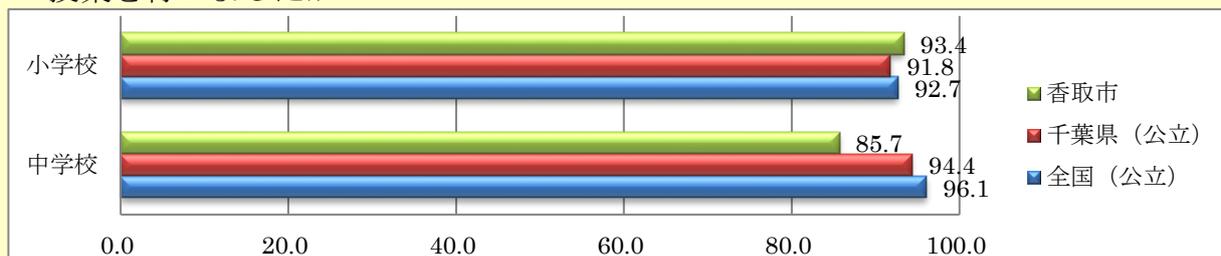
- ICTを活用した校務の効率化(仕事の軽減)に取り組んでいますか



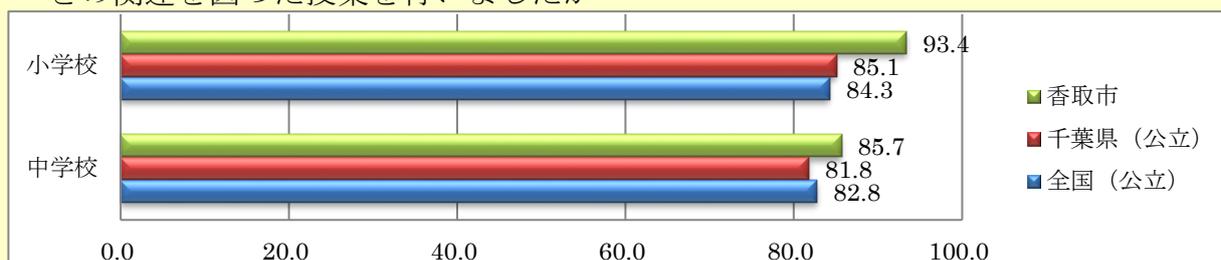
問いに対して肯定的に回答した学校の割合が高く、児童生徒一人一人を認めて伸ばし、不安を取り除いて安心感を高める相談体制を備えた学校づくりが進められていることが分かります。

また、全小中学校において、児童生徒の実態や調査、各種データに基づいた教育課程の編成と、その改善を図る一連のPDCAサイクルを機能させており、ICTを活用した校務の効率化にも取り組んでいる様子が分かります。良好な結果といえます。

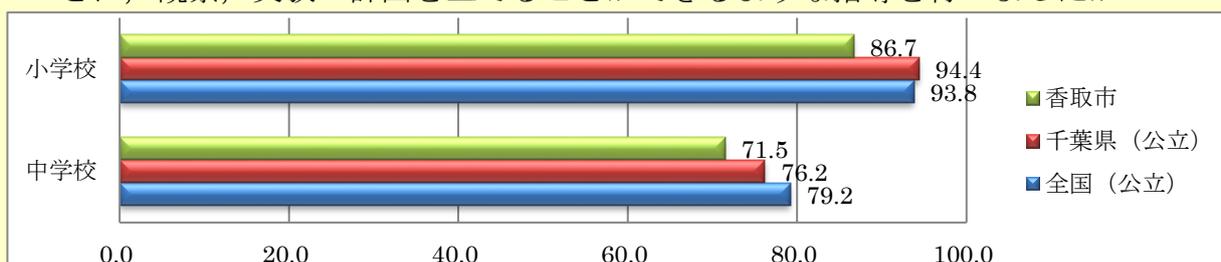
○ 児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか



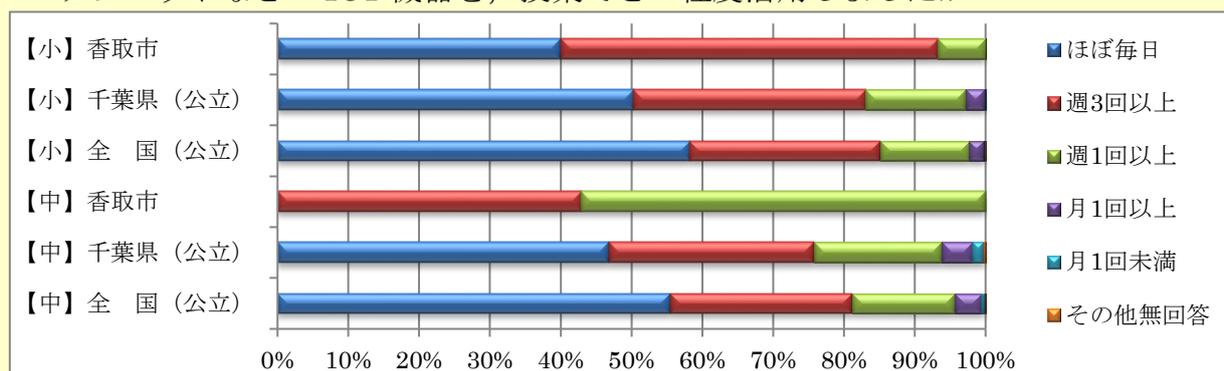
○ 児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



○ 児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか



○ 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか



教科の指導では、算数・数学で実生活と関連を図った授業を行った学校が多く、この点に関しては良好な結果といえます。一方で、国語の書くことに関する指導や、理科の予想や仮説をもとに観察、実験の計画を立てることに関する指導には課題が見られます。

また、授業での ICT 活用では、全国や県と比較して、その使用頻度に課題があることが分かりました。同時に、効果的な活用方法も考えていく必要があります。